

項番	指摘内容				対応方針						
	分類	発言者	指摘概要	発言	開発	実証事業	ガイドライン	事業全体	対応者	対応方法	対応時期
1	収集対象	田中構成員 川内構成員 遠井構成員	東北地方以外のコンテンツ ー千葉、茨城 ー東京23区	茨城や千葉に対する調査は行っていないのか。(田中) 千葉県や茨城の東日本大震災の復興計画の中には、アーカイブ構築が含まれている。旭市(津波)や浦安市(液状化)の復興計画等もあわせてご検討いただきたい。(川内) 津波、液状化に関しては東京23区においても検討しているところである。港区においては、独自にシミュレーションを行ったので近々に公表する予定である。また、情報は自治体間で連携しており、個別で行うよりも全体で活用を行った方がよい。(遠井)		◎			凸版印刷 総務省	今回の実証調査では、特に被害の大きかった東北4県とマスメディアを対象に計画させて頂きました。 他の地域のアーカイブ等について、東日本大震災アーカイブとの連携を検討したいと思います。	今年度中
2	収集対象	田中構成員 福島構成員 森山構成員 嘉村構成員 藤沢構成員	収集コンテンツの種類 ー他県から派遣された行政職員の記録 ー公文書 ー地域のイベント、チラシ ー公的機関のソーシャルメディア情報 ーNPOの活動記録 ー企業の支援活動 ーせんだいメディアテーク	①兵庫県や名古屋市においては被災3県へ職員を派遣し、その検証記録を作成されている。そういった資料の保存という点もご考慮いただきたい。(田中) ②公文書は失われがちだが保管の素地が釜石市など岩手県にできつつあるので、現場でのヒアリングも含めてご検討いただきたい。また文化庁で実施している文化財レスキュー事業は都道府県の教育委員会と連携して行っているので、そこの連携もご検討いただきたい。(福島) ③岡山県立図書館でアーカイブを行っていて後々役にたつと実感したのが、地域のイベントなどのチラシやパンフレットである。収集対象としてご検討いただきたい。(森山) ④公的機関におけるソーシャルメディアの情報も可能であれば連携した方がよい。(森山) ⑤1,000以上のNPOが200億円程度の支援金をいただいて動いており、それらの活動の記録も取得していただけるとよい。財団に提出されている報告書は、後々の活動に特に有意義である。(藤沢) ⑥せんだいメディアテークにおいては、震災後の市民の復興活動を動画で記録している。現在はYouTubeで公開しているが、連携いただければよいのではないかと。(嘉村) ⑦東日本大震災ではNPOだけでなく、多くの企業が支援を行った。これらの記録を公開することは企業にとってもCSRの観点から積極的に参加していただけたらと考えており、連携ができるとよいのではないかと。(田中) ⑧経団連にて200社以上の支援活動のとりまとめを行っているため、そちらと連携するのがよいのではないかと。(藤沢) 【12/5 メールにてご質問】 ⑨移住先で活動している方々の記録も収集したら良いと思うのですが、各プロジェクトの対応範囲になるのでしょうか。それとも別途対応なのでしょうか。(森山)		◎			凸版印刷 総務省	①ご指摘の地域ではありませんが、青森PJ、岩手PJでは、支援関連資料の収集・保存の実証調査を実施しております。 ②岩手PJでは、釜石及び地域団体のアーカイブの実態のヒアリング調査を実施しております。文化財レスキューについては岩手PJでコンテンツの所在調査を行っております。 ③各PJで、コンテンツ収集に際して、チラシやパンフレットがある場合は、電子化を実施しております。とりわけ、宮城東北大PJでは東北大付属図書館、また岩手PJでは岩手県立図書館での電子化の実証を行っております。 ④福島PJでは、自治体のtwitterで配信された当時の「つぶやき」を、アーカイブ出来ないか検討しております。 ⑤日本財団への働きかけは、国会図書館(NDL)にて主体的に実施しています。実証事業者は、NDLの取組を支援しています。 ⑥せんだいメディアテークとの連携については、今回の実証調査の範囲としておりません。東日本大震災アーカイブとの連携を検討しております。 ⑦各PJの特徴に応じて民間企業へも協力依頼を行っており、前向きな回答を頂いております。引き続き連携を進めます。 ⑧岩手PJで、経団連に連携の交渉をいたしました。進展はしていません。 →経団連との連携については、東日本大震災アーカイブとの連携を検討しております。 ⑨福島PJでは、避難自治体の出張所や連絡事務所も訪問しており、対応させて頂いております。	第3回WG/RT
3	実証内容	安藤構成員	収集方法に関するモデル作り、コンテンツ投入のモチベーションの高め方の検証	実証実験について、観点がシステムよりとなっているが、収集方法に関するモデル作り、コンテンツ投入のモチベーションの高め方という観点が必要になるのではないかと。		◎			凸版印刷	各PJで多様な方法(自治体や図書館等の依頼だけでなく民間企業への直接訪問、アンケートやヒアリングによる所在調査・実態調査、ワークショップ開催等)でコンテンツ収集を行っており、実証を進めていく中で、何らかの指針は見えてくるものではと予想されます。また、学術や市民利用という観点だけでなく雇用推進の観点でも検討を行いますので、モチベーションの考察も、そこに対応できるのではないかと考えます。特に岩手プロジェクトでは、コミュニティの代表者たちに収集すべきコンテンツとその方法についてヒアリングを行います。	第3回WG/RT
4	実証内容	森山構成員	データの保存方法、見せ方	コミュニティの記憶の伝承という観点でいえば、コミュニティの記憶はストーリーがあると伝承されやすい。ストーリーに沿ってデータが保存されているとよいのではないかと。 岡山県立図書館で、オーラルヒストリーをもとにデジタル絵本の作成を行い、好評を得た。そのようなものが、発展したアーカイブができるとよい。		◎			凸版印刷	岩手プロジェクトでは観光ガイドの方に、収集したコンテンツを使って実際のガイド行ってもらった地域での利活用の実証を行う予定です。	第3回WG/RT
5	実証内容	松崎座長 高野座長	公開方法と権利処理の関係についての整理	見る人が限定されるイベント等での公開方法と権利処理との関係についてもご検討いただくとよいのではないかと。(松崎) 実証事業としてイベント等を企画し、そこでの公開をイメージした許諾の取り方を書くと、意味のある形で公開できる許諾の取り方、コンテンツの集め方の参考になる。(高野)		◎	○		MRI・凸版印刷	調査事業の結果と、運用実証にて検討した事例をもとにガイドライン⑥として取りまとめます。	第3回WG/RT
6	実証内容	高野座長	公開に関するメタの付与方法	パブリックビューイング等の特定エリアに来た人だけに見てもらいたいイベントでの利用に関する許諾の取り方等についても検討していただく、公開に関するメタの付与方法など、必要なシステム像というものも見えるのではないかと。		◎	○		MRI・凸版印刷	調査事業の結果と、運用実証にて検討した事例をもとにガイドライン⑥として取りまとめます。	第3回WG/RT
7	実証内容	松崎座長	アーカイブの目的、利用シーンの明確化	誰がどのような形で利用するのか、アーカイブから何を学ぶかという観点も必要ではないかと。具体的な活用のイメージの例示があると、コンテンツを集めたのに利用されない、などという現状の課題は改善されるだろう。それができると、東北だけでなく、阪神淡路や中越で復興何周年というイベントを今後開催する際の参考にもなり、ありがたい。(研谷)		◎	○		MRI・凸版印刷	調査事業の結果と、運用実証にて検討した事例をもとにガイドライン⑥として取りまとめます。	第3回WG/RT
8	実証内容	研谷構成員 岩爪構成員	個々のプロジェクトの持続性、終わらせ方のモデル化	①個々のプロジェクトが存続できなくなると、持続性の担保ができなくなってしまう。(研谷) ②サーバー公開しなくてはならない時期が来ると予算が確保できず、サーバーとともにデータも消失してしまうということが想定される。継続が難しいが公共性が高いものについては、パブリッシュする仕組みや移行できる仕組みが必要となるのではないかと。オープンソースを用いて、個々のデータをパブリッシュする仕組みが確立されつつあるので、それも今後のガイドラインのポイントになるのではないかと。(岩爪)		◎			MRI・凸版印刷	①各PJで後年運用についても検討しております。 ②サーバ更改を含めた後年運用に関して運用実証にて検討した事例をもとにガイドライン⑤として取りまとめます。また、アーカイブの維持が困難になった場合に東日本大震災アーカイブにてコンテンツ、メタデータを引き受ける方策を検討し、ガイドライン③またはアーカイブサイトにて情報提供する予定です。	第3回WG/RT
9	ガイドライン	櫻村構成員	収集対象資料の価値判断基準	デジタルデータ化ガイドラインについて、収集対象資料かどのような価値をもつものかを判断する基準のようなものが記載されているとよい。		○	◎		MRI・凸版印刷	運用実証にて検討した事例をもとにガイドライン②として取りまとめます。	第3回WG/RT
10	ガイドライン	福島構成員	デジタルデータ化まで	デジタルデータ化にたどり着くまでの仕組みが重要であると考えており、ガイドラインの①と②についてはぜひとも力を入れて取り組んでいただきたい。また日常の資料をデジタル化するという点にもつなげたい。		○	◎		MRI・凸版印刷	調査事業の結果と、運用実証にて検討した事例をもとにガイドライン①、②として取りまとめます。	第3回WG/RT
11	ガイドライン	森山構成員	肖像権、被写体の所有権の処理	利用者向けのガイドラインを作成される際に、肖像権や被写体の所有権等が問題になることが多いので、ご留意いただきたい。		○	◎		MRI・凸版印刷	制度運用検討委員会で権利処理について検討しており、本指摘事項も参考に検討を進めていきます。 調査事業の結果と、運用実証にて検討した事例をガイドライン化します。	第3回WG/RT
12	事業全体	高野座長 岩爪構成員	利用促進、普及活動	データがたまった段階で事業参加者以外において、活用することもよいのではないかと。(高野) LOD(Linked Open Data)という活動に参加しているが、そこではAPIやコンテンツの活用コンテストなどを行っている。本事業でもそのような活動をしてはどうか。(岩爪)				◎	MRI・総務省	利活用WG有志主催(事務局MRI)にて、東日本大震災アーカイブが提供するAPI利活用のためのハッカソンの実施を検討しています。	今年度中